

終了報告書

留学プログラム名	滝久雄基金海外体験学習助成 2016 年夏
所属(本学)	工学部 国際開発工学学科 4 年
留学先国	フィリピン
留学先	大学/受入れ機関名: Department of Energy, NPO HaloHalo,
留学期間	プログラム実施期間: 2016 年 8 月 14 日 ~ 2016 年 8 月 27 日 滞在期間: 2016 年 8 月 14 日 ~ 2016 年 8 月 27 日

① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略

滝久雄基金海外体験学習助成は、学生が計画から実行までを主体的に行う海外での活動に対して、その活動に必要な経費を一人当たり上限 30 万円まで支給していただけるプログラムです。僕は今回同じ研究室のネパール人留学生と二人で応募をし、フィリピンと JICA がタッグを組んで導入した太陽光発電の稼働具合を調査する目的で支援を受けました。助成の対象がビジネスにつながるマーケティング活動であることから、太陽光発電の調査のみならず、広く現地の人にインタビューを行いビジネスにつながり得る需要について調査しました。

訪問期間は二週間で、訪問場所は現地で貧困層向けの少額融資を行う NPO HaloHalo、太陽光発電導入の実施主体のフィリピンエネルギー省(DOE)、太陽光発電を導入した Pangan-an island、Alumar island、Caubian island の 3 島、そして現地のビジネス支援を行うためのものづくりの場として設立された Fablab Bohol です。

② 留学前の準備

主な準備はまず企画書作成から始まりました。2 週間ほどかけて計画を詰め、メインの訪問場所について必要なアポを取得しました。その後面接を受けて企画が承認されたのちの残り一ヶ月はその他の訪問場所のアポ、航空券・ホテルの確保、アンケート用紙の作成を進めました。

③ 留学中の活動及び感想

島でのインタビューが 9 日間あったので、その合間に島での暮らしぶりを見学し、島の方々と交流する機会を得られました。今までの留学は学生が交流相手でしたが、今回は島の大人の方々、子供達が相手だったので新鮮な体験になりました。

④ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

訪問した島はどこも月平均収入が 1 万円以下のところと聞いていたので、実際に見るまでどんな生活を行っているのが想像もつきませんでした。今回の留学では、自分が持っている常識が大きく覆ることが多かったです。僕の持つ常識が、あくまで日本や主に豊かな国のものの常識に過ぎないことを知ることができました。

例えばそういった低収入の方たちはお金はなくても、魚や農作物を得てそれを自ら消費、もしくは交換という形で食料を得ていました。ここで単純に収入=通貨としていた自分の固定概念に気づきました。人々の本当の現状を見るためには、平均収入という一つの指標だけでは足りないことがわかりました。

他にも、日本では当たり前にある水道や下水、電気などの公共サービスも届いていない島では、自らのコミュニティでそれを作らなくてははいけません。しかし、公共財を自ら提供するのには主に信頼の面からとても難しいようです。私たちにとって当たり前の納税と公共財の提供というサイクルが、信頼に足るリーダーのいない村にとっては実は難しくなっていることを知りました。ここでも常識として公共財の重要性と実現の難しさに気づくことになりました。帰国後は公

共財の重要性や歴史について学び、どうしたら今回訪問したような村でも似たようなシステムを作れるか考えてみたいと、その時に思いました。

常識が覆る瞬間というのは、逆に深く物事を理解できるチャンスなのかもしれません。

⑤ 留学費用

渡航費が 90000 円、宿泊費が 40000 円、アシスタント代が 25000 円、現地移動費が 25000 円
ほぼ全て滝基金の奨学金にカバーしていただきました。食費、保険は対象外です。

⑥ 留学先での住居

ホテルに滞在しました。

⑦ 留学先での語学状況

英語は問題なし。ただし現地はセブアノ語を用いているため、英語・現地語の通訳（アシスタント）をインタビューのために雇いました。（1日 4000 円）

⑧ 単位認定

ないです。

⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

途上国の人たちに必要なものについて真剣に考え、実際にインタビューで確認する機会を得られたことは大きいです。今回得た経験をもとに、現地に必要なものについてアイデアを膨らませて、何か自分なりに貢献できることがないか探したいと思います。

⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)

特にありません。

⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

自分で計画できるこのようなプログラムは東工大に幾つかあります。他の提供型と比べて企画や手配などかなり面倒くさいですが、その分そこから学べることも多く、何よりも自分の本当にやりたいことを突き詰められるのでぜひトライしてみてください。失敗も多いですが、手厚く色々な方にアドバイスしてもらい、そこから学ぶことができるのも学生のうちだと思えます。